

修士論文作成上の注意（もちろん博論でも）

論文の構成

■ リニアに並んでいて、前から順番に読むが、

■ 同心円構造になっている。

- ・ 1. 序論
- ・ 2. 先行研究
 - ・ 3. 実験
 - ・ 4. 結果
- ・ 5. 考察
- ・ 6. 結論

書く順番

■ 中心（自分がしたこと、3. 実験・4. 結果）から書く

- ・ 3. 実験と 4. 結果
 - ・ 結果は実験結果だけを簡潔にまとめる

■ 次に、その前後の、2. 先行研究と 5. 考察

■ 周辺（1. 序論と 6. 結論）は最後

書く心構えのコツ

■ 新聞記事をイメージして、淡々と事実を書き連ねてください。

- ・ 淡々と、実験方法と実験の結果を書くところから始めましょう。

文章の構造と流れ

■ 要素を関係でつなぎ、構造を持たせる。

■ 話の流れが見えるようにする。

- ・ 流れがなく、文が並んでいるだけでは、読んでも何が言いたいのかわからない。
- ・ 本筋が途切れないようにする。
 - ・ 本筋からずれるが言及しておくべきことは注にする。

パラグラフの構造

■ 何についてのパラグラフかを明記 (Topic sentence)

- ・ 何のために
- ・ 何をどんな順番で言うか、を最初に書いておく

■ 内容を整理、ポイントは三つに絞る

■ パラグラフで伝えたかったことをわかりやすくまとめる。(Concluding sentence)

- ・ 根拠に基づき合理的に判断する。

英文の流れ

■ 旧情報に新情報を付け足すように書く

- ・ 文頭や主部より述部に新情報がくるようにする。
- ・ 長すぎる主語はよくない。

■ 一般論で大枠を述べてから具体的に話を詰める From General to Specific

- ・ 犬とは、動物で、足が 4 本あって、尻尾があって、ワンと鳴く。

■ 文単位で和文英訳をしないように

- ・ 文単位の翻訳は前後の流れが見えなくなる

英語表現

■ 修士 1 年生の時から、論文を読むときに、自分の論文で使えるような表現をメモしておく。

■ 集めた表現を「機能別」に整理しておく

- ・ 例を導入するときの表現

図表

■ ページをまたがないように配置

■ 出来上がりの時に、ページの上か下に寄せる

- ・ ページの真ん中に図表を置かない

スタイル

■ 原則 APA のスタイル

■ 例外的にかえてよい

- ・ 節番号を付ける

細かいこと

■ 地の文でない表現・単語は、APA6 ではイタリック、APA7 では引用符

■ 文頭の数字は単語で書く

- ・ × 11 people got together.
- ・ ○ Eleven people got together.

してはいけないこと

■ だらだらと事実だけしか書いてないパラグラフ

- ・何が言いたいかわからない
- ・根拠だけ書いて、合理的判断がない = 言いたいことがわからない

■ 2 ページにまたがる図や表

- ・最悪なのはタイトルだけ別のページになっているもの

■ 序論から論文を書き始めること

■ スタイルの不統一

■ 日本語の文がすけてみえる英文

- ・日本語の文を単語だけ置き換えて組み立てた英文

■ 何度も同じことを説明する

■ 何を指しているかわからない代名詞

- ・自分で読み返すときに、すべての代名詞が、自分が意図したもの以外の解釈の可能性がないか確認すること。
- ・解釈の揺れがありそうな場合は、the + 名詞 に書き換える。

■ 事実を書いているのか判断を書いているのかわからない文

■ 推測しかできていないのに、それを根拠として、次のステップへ話を進めること

■ 推測ばかりの「考察」

- ・「考察」は、事実に基づいて、合理的に判断していくこと
- ・解釈の可能性ばかり並んでいても、議論が進まない